

幻の小湊鉄道 小湊駅
大正時代から続く鹿島とのつながり

織力を挙げて受注

小湊鉄道は大正時代初期に着工され、1915年（大正4年）に開通した。この鉄道は、農業を中心とした地域の発展を目的として建設された。路線は、現在のJR東海道本線と並行して走る形で、主に農地や沿岸地域を結んでいた。この鉄道の開通により、農産物の輸送や、地域間の交流が大きく促進された。また、鉄道によって、多くの人々が移住し、新しい生活環境を作り出していくことになった。

この鉄道は、現在も運営されており、観光用の列車や、貨物輸送などで活躍している。また、沿線には、多くの歴史的建造物や、自然の美しさが残されており、多くの観光客が訪れる人気スポットとなっている。

今後、この鉄道は、さらなる整備や、新規の駅設置などにより、より多くの人々に利用される機会が増えていくことが期待されている。



が専門で施工してい玉す。また、道路事情が整っていかなかつた地域と幹線をつなぐための私鉄が、有志を中心にしてどんどん作られ、中には私財を投げ打つて鐵道敷設に命をやける者もいまして。黄色と赤色がし卜口な感じで有りです。



小海鉄道
絵言画

小湊鉢進
歴史

小 漢 全 鐵 之 道 新

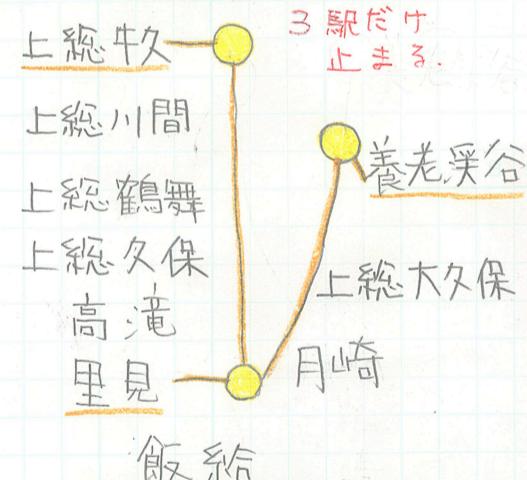
里山トロッコ

縄文の時代から、この地には養老川・クスギ・ナラなどの落葉樹、そこには集まる鳥や虫、それらを人の官能と分け隔てることなく和して生きていくという里山文化が今も続っています。



トロッコ列車の停車駅

上総牛 3 駕だける 止まる



トロッコ車両

トロッコ車両は、クリーニングディーゼル工場に先頭に窓ガラスがない開放感抜群の展望車2両を、窓付きの車両で狭んだ4両のトロッコがつながった編成です。倉庫で眼っていた大正時代の汽笛を磨きそのまま搭載。懐かしい音色を里山にひびかせます。

最大寸法	8450mm×2650mm×3500mm
空車重量	25.0t
設計最高速度	40 Km/h
総排気量	12780cc
連続定格出力	756Kw/1900rpm

～切符の種類～

小湊鉄道の有人駅では今まで珍しい硬券が販売されています。
駅ごとにパンチ入れ、その形で駅ごとに違っています。



老渕谷駅と
名を改テ